

第3回我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議概要

会議名 第3回我孫子市文化交流拠点施設整備専門家会議
日時 平成26年3月3日(月) 9:30～11:35
場所 我孫子市役所 議会棟 A・B会議室
出席者 [専門家会議委員] 神野委員・野口委員・渡辺委員[欠席：足立委員]
[事務局] 大畑企画財政部次長兼企画課長
増田生涯学習部次長兼生涯学習課長・木下課長補佐・高見澤主査長
[関係課] 徳本環境経済部参事兼農政課長・増田農政課主幹
染谷商業観光課長・山崎都市計画課長・西沢文化・スポーツ課長

傍聴者 2名

議題等

- 1 調査対象地の評価(案)について
- 2 新たな文化交流拠点施設のコンセプト・規模・機能(案)について
- 3 次回の日程について

会議概要

1 調査対象地の評価(案)について

資料に基づき、事務局より評価(案)について説明を行った。

[委員] これまで候補地について検討を行ってきたが、3回目でこれを出すことについては疑問を感じる。入口の段階で検討除外になってしまうものについてなぜ検討を行うのか。用途変更の可能性を探ったけれど整備は難しいということか。

[事務局] 今回検討している候補地は、これまで、検討してきた3か所に加え、新たに総務企画常任委員会や予算委員会において議員から提案のあった2か所と、庁内の検討委員会で提案のあった2か所の全7か所である。全ての候補地についてはまだ評価を入れていないため、今回合わせて検討を行うものである。

[委員] 「難しい」とすると門前払いという感がある。

[関係課] 用途変更の条件は個々別々に異なるため、文脈を変える方がよい。

[事務局] ここは「都市計画法、建築基準法」から見てどうかということで、用途変更は不可能ではないが、可能性が低いものについては、不可ではなく、「難しい」として記述している。

[座長] 難易度が高いということか。「難しい」ではなく、文言の工夫をしてほしい。

[委員] 参考N値50以上の表現だが、高野山新田と下ヶ戸地区では杭の深さが20m違ってくる。すなわち事業費も変わってくるため、同じ評価は適切ではない。

[座長] 10m、20mではかなり違ってくる。今回新たに対象地で実施したものではなく、既存の近傍地データを参考にしているということなので、複数データの平均を持ってくるなど工夫が必要。むやみにデータを出すことは、後に数字が独り歩きしてしまうことがある。

[委員] 数字は参考であり、地盤の状況についての項目なので「N値50以上の範囲が見られた」程度にとどめてはどうか。

[事務局] その方向で検討する。

[委員] この書き方だと初めから液状化の可能性が大きいと分かっているから選んだのかと思

- う。地盤改良があれば大丈夫なのか。
- [座長] 建設できないのではなく、基礎工事に事業費がかかるということと捉えている。また、市役所移転は、現在計画されていないから移転前提の場所は候補地から除外するということか。
- [事務局] そのとおりであるが、評価は行う。
- [座長] 最寄駅までの距離を評価しているが、電車の本数も同じカテゴリで評価できるのか。似たような項目であり、ダブルで評価することになる。
- [委員] 川村学園女子大学との連携の可能性は下ヶ戸・岡発戸に入れ込まなくてよいか。
- [事務局] 大学との連携は市内どこの場所でも可能であると判断した。また、客観的に測れるよう引用は「あびこガイドマップ」とした。
- [委員] 隣接した敷地であれば、他の候補地よりも連携効果は大きいのではないかと。
- [座長] ガイドマップ以外の施設もにぎわいの潜在的可能性があるものについて拾った方がよいのではないかと。文化・教育系で、平日の施設稼働率を探るには、地域の教育利用の視点から例えば大学など学校施設が周囲にどのくらいあるのかなどを拾ってもよいのではないかと。高齢者や障害者施設も可能性が出てくるのではないかと。
- また、市の方針として再生可能エネルギーを導入する予定はあるか。
- [事務局] 方針はある。
- [委員] 太陽光発電設備の導入で日照は考慮しないのか。
- [座長] 評点に差が出なくても我孫子市としての姿勢を示すうえでも検討項目にいれてはどうか。
- [事務局] 評価項目として設定する。
- [委員] 小売店の規模は同じか。
- [事務局] 小売店は、規模は考慮していない。
- [座長] 売り上げなど定量的に反映できないか。
- [委員] 例えば3階建の大きなスーパーと小さな小売店を同じ1店と捉えない方がよい。
- [事務局] 売り上げと売り場面積も探ることができる。
- [座長] 小売店があるところに相乗効果を生む可能性があるとうわがる。
- [委員] バスの利用者数がわかった方が、動きがわかる。例えば川村学園女子大学は平日のみ利用が大きいということも考えられる。
- [委員] 候補地は残ったものを探るのか、全ての候補地で意見を反映させるのか。
- [座長] 残ったものだけを検討する方が現実的である。
- [事務局] 残ったものに絞って詰めていくという考え方もある。
- [委員] 周辺人口だが、昼間人口と夜間人口との差でみるのはどうか。
- [委員] 下ヶ戸・岡発戸の方は差があるのではないかと。
- [座長] 周辺人口が7～8千人は相対的に低くなるのはわかるが、見込みが全くないわけではないので評価点を0点とするのは見直してほしい。
- [委員] もう少し細かく分けた方がよい。
- [委員] 人口が多ければよいとは限らない。
- [座長] 人口と交流人口は別に評価をした方がよい。交流人口の可能性としてアクセスがあるが、利用できる駅の数や駅自体のポテンシャルも評価の対象となる。例えば我孫子駅と新木駅はポテンシャルが異なる。目的のある人に差はないが、「行ってみようか」くらいの人はアクセスで差が出る。

2 新たな文化交流拠点施設のコンセプト・規模・機能(案)について

- [委員] 全体的に内容はまとまっていると思うが、「まちづくりと連携した利用方法を持った施設」という文言を加えた方がよい。施設をつくれば勝手に交流人口が拡大するわけではない。また、震災を踏まえて、「環境・自然エネルギー利用の拠点となる施設」としてのコンセプトを4本目の柱としてはどうか。
- [座長] どちらも賛成である。
- [委員] 賛成である。地域活性化が先に来ているので、3番目の柱をその前に持ってきて連携や交流の拠点としたまちづくりを鮮明にした方がよい。4本の柱に加えて、バリアフリーやユニバーサルデザインなども全面に出した方がよい。震災を踏まえてコンセプトをどう構築していくか考慮したほうがよい。
- [委員] コンセプトは施設より人の部分をもっと前に出した方がよい。
- [委員] ここで他の自治体のデータから平均値を出して比較するのは横並びの感がある。我孫子市はNPが多いとか大学がいくつあるとか、我孫子市の特徴を踏まえたコンセプトを反映させた文章に工夫すべきと考える。
- [座長] 例えば、「NPOの活動が盛んなら楽屋が会議室としても使える」という文言に工夫する必要がある。
- [委員] 会議室ではなくて多目的室としたらどうか。自然エネルギー活用の施設とするとコンセプトが見える。
- [座長] 活動の広がりが見える機能としてほしい。1,000席規模のホールの押さえ方だが、市民団体アンケートでは、1,000席規模を8団体が必要と回答していたが、市民団体の利用は土日祝日がほとんどである。平日閑散とするホールをどう捉えていくのか。人口1,000席当たりの平均座席数から導いたホールの規模や機能優先ではなく、市民の合意をどう得て、その機能をどう活かしていくかということが大切ではないか。稼働率にもつながるが、周辺の学校からも利用されるような地域のセンター機能を担うという話であれば理解ができる。
- [委員] 多目的利用のドームなど、客席を引き出すタイプの文化施設でも立派なものが出てきた。ただ、多目的ホールとしてつくっても、大規模過ぎるものや暗転できない施設は、なかなか稼働率を上げることは難しい。音響機能が最高グレードでない1,000席規模の多目的ホールもつくれなくはないが、こうしたホールの利用が年に何回あるのか。
- [委員] 稼働率がわからないと何とも言えない。
- [事務局] 市民団体へのヒアリングでは、音楽性の高い施設であれば近隣市の団体や学校の利用も増えるという意見もあった。
- [座長] 武蔵野市は音楽に力を入れているが、我孫子市としてもその覚悟はあるのか。
- [事務局] 市として、音楽だけに力を入れていくという方針はない。
- [座長] 既存の芸術・文化の枠を乗り越えて人とつながっていくということならいいが、現在の底上げ程度なら誤った認識を植え付けてしまう恐れがある。ホールの機能を優先させるのではなく、どう活用するのかを優先すべきである。求められるところに新たな機能を付加していくとよい。
- [委員] 本格的な音楽ホールと多目的利用のホールとでは、どちらがよいかランニングコストのシミュレーションがないと見えづらい。今後ワークショップを行っていくに

しる検討材料になる。

[委員] 自然光が差し込む多目的利用の大規模ホールで客席を暗転させるのは、ランニングコスト面でも費用がかかる。例えば、人工照明を消せば暗転可能なホールの舞台背面を開けるという工夫くらいなら新規性はあるが、開放的な多目的型にしてしまうと音響機能もかなり低くなる。

[座長] 平日の稼働率を上げるための工夫を開かれた場で今後議論する必要がある。飲食物関係のワークショップができるところ、八戸の「はっち」のようにガラス張りなどでそれが見られるところ、あるテーマでレクチャーできるところが望ましい。

[委員] 芸術的なホールと農産物の飲食は「ハレ」と「ケ」、日常と非日常みたいな感じを受ける。よさもあるだろうが匂いとか戦略的にどうするのかすごく難しいと思う。

[座長] 重要な指摘である。既存の道の駅みたいなイメージだとだめではないか。その時に我孫子市として食文化をどう位置づけて、どう体験させ、どう見せていくか。普段と違ったシチュエーションで見慣れたものをどう提供するのか。そこが生命線。人間の余剰の部分をどうするのか、日常を引き上げるものが文化交流拠点として重要になってくる。難しいことであるが面白いことでもある。

[委員] 建物内だけではなく隣接する広場などの仕掛けも大切になってくる。

[座長] そうするとバゲットを片手に外でコンサートなどもできる。今は音楽を体験する人だけの施設だが、演奏する人だけでなく、「提供したい」、「行きたい」と思わせるような施設のイメージが広がる素案をつくってほしい。飲食施設は、常設のものだけではなく実験的に短期間イベントとして入れていくこともよいかもしい。我孫子に住もうかなと思わせるものがあるとよい。

[委員] 農産物も売るだけでなく、最低限の設備をもった、朝市など、室外で農産物を売るゾーンがあるとよい。

[座長] そのために必要なスペースはどういうものが必要か、農業者ニーズと市民ニーズをつなぐ、交流の視点・スペース等、面積比でおおよそを示す程度で交流ゾーンなど建物外も含めて提示できるとよい。「私ならこうする」というイメージの広がり、新しいものをつくるチャンスをどれくらいつくるかという視点を残しておいた方がよい。にぎわいとともにはない機能を持った施設をつくっていくことが重要となっていく。

以上